

J F Eグループインベスターズ ミーティング
(2019年度第1四半期決算および2019年度業績見通し)
2019年8月9日開催 質疑要旨

Q. 下期の主原料価格は鉄鉱石、原料炭ともに6月から足下までのスポット市況の平均程度で織り込まれているとの理解でよいか、また輸出の販売価格の織り込みの考え方を教えて欲しい。

A. 主原料価格の織り込み前提については概ねご認識の通りである。下期の販売価格については、鉄鉱石の市況上昇を背景に鋼材市況も若干回復するとの想定で織り込んでいる。

Q. 生産調整については、高止まりする市中在庫の調整を図るための一時的な対応なのか、それとも需要見合いの生産をしていくということなのか、考え方を教えて欲しい。

A. 一時的な対応ということではなく需要見合いの生産をしていくということであり、年間の鋼材需要の見通しをもとに粗鋼生産量を見直した。前回見通し比100万トンの粗鋼生産減のうち半分程度が生産調整の影響によるものである。

Q. 足下の鉄鉱石価格と原料炭価格の急落が販売価格等の今後の業績に与えるリスクをどう考えているか教えて欲しい。

A. ブラジルの鉄鉱石生産に回復の兆しも見られることから、鉄鉱石価格の下落そのものは大きな驚きではない。ただ、ここ数日の鉄鉱石や原料炭の市況の動きは激しく、今後の動向を注視する必要がある。販売価格への影響については、国内紐付きは主原料価格の変動をある程度販売価格に反映するので、業績に対する影響は小さいと考えている。海外については主原料価格の動向に対し、鋼材市況がどう反応するかを注視していく必要がある。

Q. 操業トラブルの内容について教えて欲しい。

A. 昨年度にあったような高炉の大規模な操業トラブルではなく、製鋼工程以降の小トラブルが重なった。1Qの実績を踏まえて年間の粗鋼生産量の見通しに一定程度の影響を織り込んでいる。前回見通し比100万トンの減産のうち約半分がトラブルによる影響であり、上期下期で同程度の影響を織り込んでいる。

Q. 1Q から 2Q にかけてのスプレッド悪化の内容、及び 2Q から下期にかけてのスプレッドの織り込みの考え方を教えて欲しい。

A. 2Q の販価・原料の悪化▲110 億円（対 1Q）は、主として主原料価格の上昇によるスプレッド縮小を織り込んだものである。2Q から下期にかけては、若干のスプレッドの回復を見込んでいる。販売価格については、国内は主原料価格や諸物価等のコストアップ要因の販売価格への反映等により一定程度の改善を、輸出も海外鋼材市況の回復を想定し一定程度の改善を織り込んでいる。一方で鉄鉱石価格は 2Q から下期にかけて上昇を見込んでいる。

Q. IMO の SOx 規制の影響によるコストアップは今回の見通しにどのように織り込まれているか教えて欲しい。

A. SOx スクラバーや LNG 燃料船等の対応も進めるが、即効性のある対応としてまずは適合油への切替えを想定している。適合油の価格動向は不透明であるが、業績見通しには数十億円のコストアップを織り込んでいる。お客様に対して販売価格にある程度の反映をお願いしていく必要があると考えている。

Q. 鉄鋼事業の 19 年度「販価・原料」▲930 億円（対 18 年度）の悪化には、足下の需給環境を考慮すれば、汎用品の輸出比率が増えることによる品種構成の悪化影響も含まれていると思うが、品種構成悪化の影響について教えてほしい。

A. 品種構成差は分析項目上、「数量・構成」の内数としており、18 年度対 19 年度においては、あまり大きな影響は出ない見通しである。

Q. 鉄鋼事業の 19 下の販価・原料▲30 億円（対 19 上）の悪化について、国内と輸出別の影響を教えてほしい。

A. 国内、輸出ともにスプレッドは若干悪化する見通しであり、両者の動きに大差はない。

Q. JFE スチールの単独経常利益について、通期の見通しのイメージを教えてほしい。

A. 開示対象ではないため、現時点で精緻に算出しているわけではないが、何とか黒字を確保する程度の水準だと見ている。

Q. 前回公表時における 19 年度見通しでは、18 年度 4Q の輸出スプレッドの水準が 19 年度に継続する前提となっていたと思うが、19 年度 1Q の実績と、今回の見通しにおける 2Q 以降の輸出スプレッドの前提について教えてほしい。

A. 19 年度 1Q の輸出スプレッドは、18 年度 4Q なみの水準となったが、19 年度 2Q については、輸出市況が下落していることを受けて 1Q の水準から下落する見通しである。下期については、鉄鉱石市況の上昇を受けて輸出市況の回復を見込み、19 年度 1Q なみの

水準までスプレッドが回復する見通しである。

Q. 足下の景況感は10月の消費増税や在庫水準等を考慮すると、あまり好ましいものではないと思うが、19上から19下にかけての粗鋼生産を横ばいとする考え方について教えてほしい。

A. 国内環境の見方は足下難しい局面にあるが、下期にかけても需要は底堅く推移し、一定の需要があるとの前提にたっている。

Q. 説明資料に記載の財務健全性維持に向けた取り組みの中で、資産圧縮を挙げているが、具体的内容について教えてほしい。

A. 具体的内容は、今後の実際の収益動向を考慮して検討を進めていく考えであり、現時点でまだ具体的に決まっているものはない。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。